

# 川之江中心拠点地区都市再生整備計画

## 概要書

平成 27 年度～令和元年度(令和 2 年度繰越)



四国中央市

1. 計画期間：平成 27 年度～令和元年度（5 ヲ年間）

2. 区域面積：130.0ha

3. 大目標

「歩いてつなぐ健康文化都市かわのえ」

4. 目標

(1) 地域の歴史・文化資源を活かした回遊機能強化と賑わい再生

(2) 都市機能集約による交流と賑わいの創出

(3) 誰もが安心して健やかに暮らせる生活環境づくり

## 5. まちづくりの経緯・現況

### 【背景と目的】

新たな市民文化ホール建設計画に伴い、現在の役割を終えることとなる市民会館川之江会館跡地の活用検討を契機として、川之江会館跡地を地域活性化の中心拠点と位置づけ、交流によるにぎわいを取り戻すための活性化拠点地区の形成を図る。

跡地活用検討に併せ、周辺に散在する老朽した公共施設を整理し、総合的なまちづくりを推進する。

- 川之江地区まちづくり基本計画策定（H25.6）
- 川之江地区まちづくり実施計画策定（H26.7）
- 川之江中心拠点地区都市再生整備計画作成（H27.3）



### ■川之江中心拠点地区都市再生整備計画事業（H27～R1）

## 6. 地区の現況（整備前）



収蔵及び展示スペースが不足した  
高原ふるさと館



川之江老人憩いの家（老朽化）



オアシストイレ（老朽化）



川之江公民館（老朽化）



川之江児童館 (老朽化)



市民会館川之江会館 (老朽化)

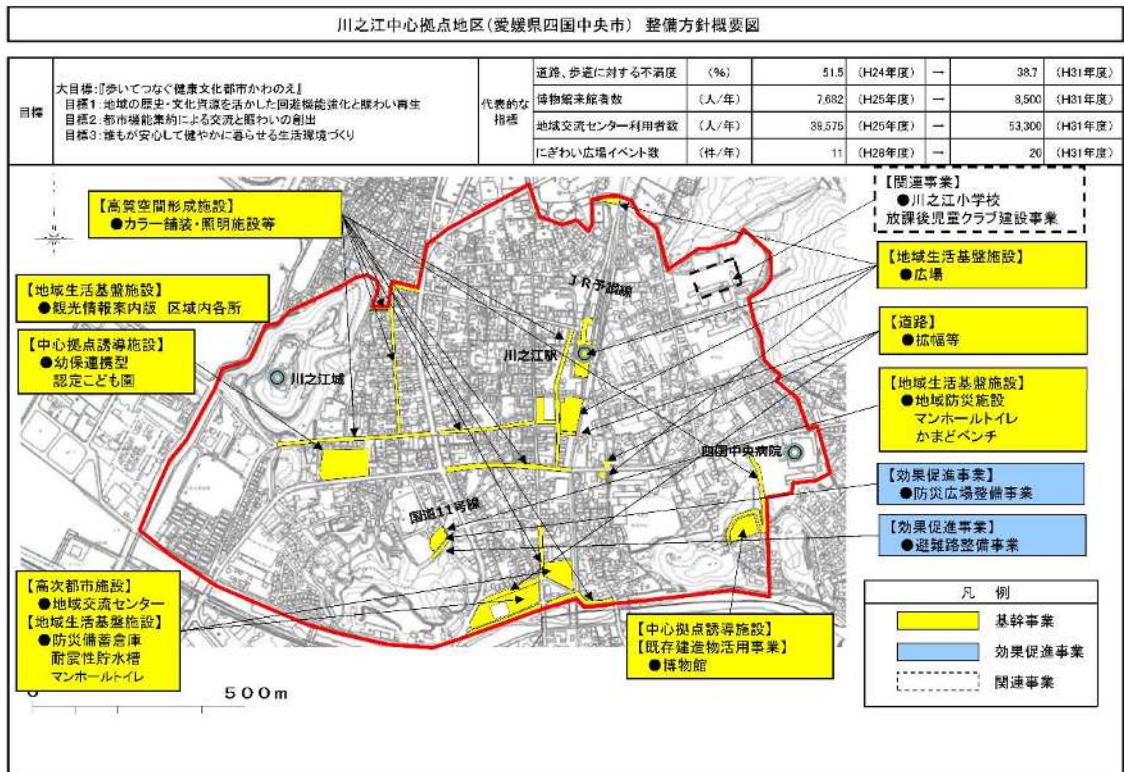


考古資料館 (老朽化)



港通りアパート (老朽化)

## 7. 整備内容



# 道路

◆大規模な事業を除く新設、改築又は修繕

## 川之江神ノ木線

・栄町第1駐車場へのアクセス性向上のため、川之江公民館の敷地を活用し、道路を拡幅

L=42.0m、W=4.0m



W=6.0m

整備後



## 破砂子1号線

・川之江ふれあい交流センター進入路としての利便性を向上させるため、当該敷地の一部を活用し、道路を拡幅

L=150m、W=6.0m ⇨ W=7.0m

整備前



整備後



## 塩谷小山線

・通学路として利用する歩行者の安全性を向上させるため、道路を拡幅

L=34m、W=3.4m ⇨ W=15.0m

整備後



## 地域生活基盤施設

◆多様な都市活動に利用できる広場や災害に強いまちづくりのため設置する施設

### にぎわい広場

・商店街に隣接した立地を生かし、買物客や観光客の憩いの場、イベント開催によるまちのにぎわい創出の場、まちなか回遊の拠点として整備

$$A = 5,013.92 \text{ m}^2$$

(ステージ棟)

- ・鉄骨 2 階建て
- ・280.95 m<sup>2</sup> (うちステージ 143.09 m<sup>2</sup>)

(トイレ棟)

- ・20.38 m<sup>2</sup>

(芝生広場)

- ・3,930.75 m<sup>2</sup>



### ポケットパーク (浜田踏切)

・道路整備に伴い発生した残地部分を有効活用し、まちなかの回遊性を高めるため整備

$$A = 325.68 \text{ m}^2$$



### ポケットパーク (川之江高校西交差点)

・道路整備に伴い発生した残地部分を有効活用し、まちなかの回遊性を高めるため整備

$$A = 48.94 \text{ m}^2$$



## 駅前広場

- ・市の玄関口としてまちの魅力を高めるため、JR川之江駅の駅前広場の美装化及び案内サインを設置

A=1,835 m<sup>2</sup>



## 防災広場

- ・川之江老人憩いの家は交流センターへの機能集約により活用を終えることから、避難場所である川之江体育館に隣接している状況を考慮し、防災広場として整備

A=1558.46 m<sup>2</sup>

- ・マンホールトイレ 4 基
- ・かまどベンチ 2 基
- ・手押しポンプ



広場は効果促進事業として整備



災害時にはマンホールの上に簡易な便座やパネルを掛け、トイレに困らないよう迅速にトイレ機能を確保



災害時にはかまどとして使えるベンチ(ベンチの中にかまどが収納されてる)



地下水を利用し生活用水を確保するための手押しポンプ

## 防災備蓄倉庫 (交流センター内)

- ・防災用資材等を保管

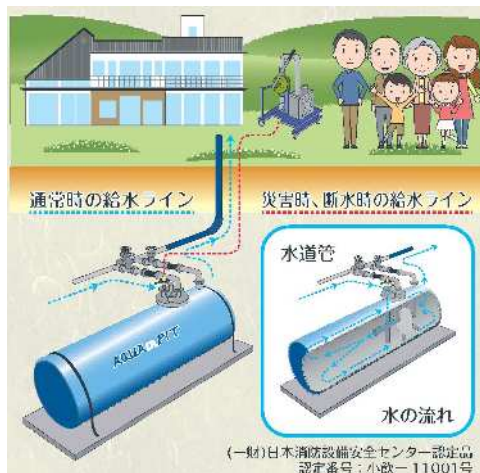
A=164 m<sup>2</sup>



## 耐震性貯水槽 (交流センター内)

・水道管の一部を太くした形のもので、普段は水道管の一部として使用しているため、常に清浄な水が流れており、震災等で水道管が破損した場合には、自動的に緊急遮断弁が作動して、貯水槽内の水を飲料水や消火用水として確保

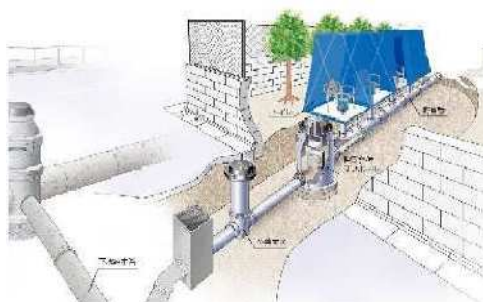
$$V = 10 \text{ m}^3$$



## マンホールトイレ (交流センター内)

・下水道管路にあるマンホールの上に簡易な便座やパネルを設け、災害時において迅速にトイレ機能を確保

・ 4 基



通常時  
(駐輪場)



災害時  
(非常用トイレ)

## 高質空間形成施設

◆グレードの高い都市空間を創出し、魅力的なまちなみを実現することが可能となる植栽・緑化施設、カラー舗装・石畳、照明施設等

### 城山公園進入路

- ・カラー舗装により歩車分離を行うとともに、周辺景観に配慮し整備  
L=53m、W=7.3m

整備前



整備後



### 井地川之江港線

- ・カラー舗装により歩車分離を行うとともに、周辺景観に配慮し整備  
L=550m、W=4.6m、外側線 L=380m

整備前



整備後





## 港通西新町線

- ・カラー舗装（石畳風）により歩車分離を行うとともに周辺景観に配慮し整備

L = 400m、W = 4.4m

整備前



整備後



## 破砂子馬場線

- ・カラー舗装により歩車分離を行うとともに、周辺景観に配慮し整備

L = 383m、W = 5.0m

整備前



整備後



## 病院西線

- ・ カラー舗装により歩車分離を行うとともに、周辺景観に配慮し整備

L = 410m、W = 5.5m

整備前



整備後



## 川之江大豊線

- ・ 沿道は栄町上通り商店街であるとともに、交流センターへのアクセス道となっているため、側溝改良により道路幅員を最大限活用して歩行者空間を整備

L = 140m、W = 7.7m

整備前



整備後



## 川之江山田井線

・歩道をフラット化し歩きやすい歩行者空間を確保するとともに、沿道の植栽を更新し、  
景観に配慮した整備

L = 315m、W = 12m

整備前



整備後



## 駅通栄町線

・JR川之江駅からにぎわい広場へとアクセスする道路であるため、歩道のフラット化  
と街灯設置を行い、歩行者が安心して歩ける道路として整備

L = 320m、W = 8.2m

整備前



整備後



## 港通栄町線

・にぎわい広場から城山公園へのアクセス道路であるとともに、通学路となっているため、児童の安全性の確保のため、側溝の改良により道路幅員を最大限活用して歩行者空間を整備

L = 244 m、W = 5.4 m

整備前



整備後



# 高次都市施設

◆様々な角度から魅力と活力に満ちた都市拠点の整備

## 川之江ふれあい交流センター

・地域のコミュニティ醸成と住民主体のまちづくりの誘発を図り、地区の中心拠点かつ交流機能として日常的に活用される施設を目指し、川之江公民館、川之江児童館、老人憩いの家、老人つどいの家の機能集約及びかわのえ高原ふるさと館の貸館機能・講座機能を集約し、子どもから高齢者までが集い交流できる施設として整備

R C造一部鉄骨2階建て

床面積：2,773 m<sup>2</sup>

- ・ 1階（ホール、遊戯室、会議室、調理室、防災備蓄倉庫）
- ・ 2階（会議室、和室、工作室）



## 交流センター広場

面積：約 3,000 m<sup>2</sup>

主な施設：ふわふわドーム、噴水、幼児用遊具、芝生広場、  
防災施設（飲料水用耐震性貯水槽、マンホールトイレ）



## 中心拠点誘導施設

◆既存ストックの活用などにより、都市機能維持に必要な機能を確保し、地方都市の拠点の活性化に資する施設の整備

### 博物館

・本市の歩みを示す貴重な歴史資源を受け継いでいくために、文化財や郷土資料の保管、展示を行う施設として立地している考古資料館は老朽化が進み、高原ふるさと館は展示機能の強化が必要となっているため、施設の機能集約により、収蔵機能と展示機能の充実を図り、地域の歴史・文化を発信する拠点として整備

#### 【収蔵館新規建設】

R C造 2階建て

床面積 661 m<sup>2</sup>

- ・1階（図面整理室、遺物整理室）
- ・2階（考古収蔵室、特別・古文書収蔵室）

整備後



## 【既存建造物活用事業】

R C造一部S R C2階建て

床面積 1,404 m<sup>2</sup>

- ・1階（企画展示室、特別展示室、ワークショップルーム、ギャラリー）
- ・2階（情報コーナー、展望デッキ、和室）



## 川之江認定こども園

・老朽化が進行した川之江保育園を改築し、さらに川之江幼稚園と隣接する強みを活かし、保育園と幼稚園の良さを併せ持つ幼保連携型認定こども園への移行を検討し、需要と供給のミスマッチを解消し入園者を増加させることで、施設の利用率を高めるとともに、地域の子育て支援環境の充実によるまちの求心力向上を目指し整備

（増築棟）

鉄骨造平屋建て

床面積：794 m<sup>2</sup>

- ・保育室、遊戯室、職員室

（既存棟）

RC造 2階建て

床面積：1,045 m<sup>2</sup>

- ・1階（保育室、調理室）
- ・2階（保育室、図書室）

（園庭）

面積：2,800 m<sup>2</sup>

主な施設：ブランコ、滑り台、うんてい、ジャングルジム、砂場、屋外倉庫

整備後

